カルメル
霊性センターニュース

発刊 300 号記念

（奥村一郎神父追悼）

2014 年 7 月　　300 号

目次

奥村一郎神父　追悼・・・・・・・・・・・・・・・・1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・２３

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・３７

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・・４６

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４７

『霊性センターニュース』

300号発行記念に寄せて

2014年7月

愛読者の皆様

『霊性センターニュース』が発行されてから今月で、300号を迎えることになりました。ここまでこの小さな冊子を多くの人々がさまざまな形で支えてきてくださったことを、心から感謝申し上げます。奇しくも先月6月4日、創刊者である私たちの兄弟、聖霊のマリア・アウグスティヌス奥村一郎神父が帰天し、この記念号が追悼号となってしまいました。

奥村一郎神父が「霊性センター」構想のもと、「霊性センターニュース」第1号を発行したのは、今から二十数年前。最初はB5一枚で奥村神父自身の勉強会や黙想会など、「黙想の家」の企画案内が主な内容でした。それから、年11回（8月は休刊）、たゆまず発行し続けてまいりました。奥村神父のエッセイなど、徐々に他の会員の書き物が加わり、現在では、「心の泉」「カルメル会の企画案内」「諸所の企画案内」の三部構成になっています。

インターネットが普及した今、印刷物（本や雑誌）を読む人は激減しているようです。しかし、印刷物には、スマホやタブレットでは味わえない出会いがあるように思います。スマホやタブレットでは、好きな時に好きな情報を勝手にダウンロードし、飽きたらすべて消去できます。まったく自分の自由ですが、印刷物の場合は、そうはいきません。重さがあり、かさばり、持ち運ぶには鞄に入れなくてはならず、取扱いが厄介です。ゴミ箱に捨てることもできますが、心に残った本、高い本であれば、どうでしょうか。印刷物が自分の存在を主張し始めます。どこか人との出会いと似ているところがあるかもしれません。

『霊性センターニュース』は、小さな手作りの冊子です。この冊子が、キリスト者の霊的生活のささやかな支え、慰めとなりますように、黙想会等の情報を入手し、参加することによって、神との交わりを深めていくことができますように、祈っております。これからも、ご支援をお願いいたします。

『霊性センターニュース』
編集長　九里　彰神父

2014年6月7日　マリア・アウグスティヌス 奥村一郎神父　葬儀ミサ
於：東京カトリック上野毛教会聖堂

そのままに

奥村一郎

何も考えないで、何も思わないで、ただそのままに生きたい。
悲しいことも、楽しいことも、淋しいことも、つらいことも、あるけれど、
悲しみは悲しみのままに、楽しみは楽しみのままに、
そのままに生きたい。
この地上のことは、みんな、いつかは消えて行く。
万物流転、嫌なことも、楽しいことも。
小鳥が小枝で、虫が草むらで鳴くように、
そのままに生きたい。
あまり窮屈なことをいわないで
あまり自分の好みを人に押し付けないで、
みんなと、そのままに自由な空気を吸って生きたい。

神様は、何一つも同じ素質を同じようにお与えにはならなかったのだから、
小さいものは小さいなりに、大きいものは大きいなり、
そのまま、与えられたそのままを、恥ずかしがることも、恐れることもない。
そのままうけて、主を讃えよう。
狭い心にならないように。
間違ったって、いいじゃないか。
間違いも、そのままに受け取れば、すこしは謙虚の薬になる。
神様は、私たちが、失敗することを責められない。
そうしたことにこだわって、いらいらしたり、
無闇に、自分をいじめることを、嫌われる。
何も考えないで、何も気にしないで、
そのままに、うけて生きよう。

詩人奥村一郎

九里（くのり）　彰

奥村一郎神父と言うと、神学的な問題を東西霊性の立場から縦横に取り上げ、深い解釈を披歴する思索家というイメージがある。そこで散文を得意とするように考えていたが、神父は基本的に詩人であったように思う。多くの論述にも単なる論理を越えた鋭く豊かなインスピレーションが働いており、それが師の作品を魅力あるものとしていたと言える。

ここに挙げた左記の詩は、死後、手帳の中から発見された宮沢賢治の「雨ニモマケズ」にも似て、一つの祈りのような詩である。

何も考えないで、何も思わないで、ただそのままに生きたい。

この冒頭の一節は、「破木杓、脱底桶」という禅語をよく使った師の透脱した境涯をよく表している。「小鳥が小枝で、虫が草むらで鳴くように、そのままに生きたい」。8 世紀の中国の禅僧、薬山大師は坐禅して何を考えているのか問われ、「思量箇不思量底」「非思量」と答えている。あれこれ物事を複雑に考えていく人間の思慮分別を越えた無限に広い自由な世界、キリスト教的に言えば、「幼子のような心」が垣間見えるのではないだろうか。

この詩の題は、「そのままに」である。この詩を最初に読んだとき、私は、「テレーズと東洋的霊性」という師の論文を想い起こした。そこではリジューの聖テレジアが四歳の時のエピソードが紹介されている。姉のレオニーがお人形の着物や端切れの入った籠を持って来た時、セリーヌは飾り紐の束を選んだのに対し、テレーズは「私はみんな選ぶ」と言って、全部取ってしまったというのである。それは、日々生起する良いことも悪いことも、楽しいこともつらいことも、えり好みせず、すべて神からのものとして受け取っていく聖女の人生態度を先取り、象徴していたというのである。

師はこの態度に類似するものとして、「至道無難　唯嫌揀択」（もっとも優れた道には、何の困難もない。唯一つ、そこで避けるべきことは、えり好みすることだけ）という禅語を取り上げ、さらに良寛さんの「災難に逢う時節には災難に逢うがよく候。死ぬ時節には死ぬがよく候。是は災難をのがるる妙法にて候」という言葉を引いている。

要するに、以上の理解は、次の詩の言葉になっているのではないだろうか。

悲しいことも、楽しいことも、淋しいことも、つらいことも、あるけれど、
悲しみは悲しみのままに、楽しみは楽しみのままに、
そのままに生きたい。

随想：奥村一郎師との出会い

奥村一郎師に初めてお目に掛かったのは、今から27年前のことでした。
娘が入学した田園調布雙葉学園で保護者研究会が開かれ、各所から神父様をお招きして、講話を受講する機会を得ました。未だ信者でなかった私には、初めのうちは正直なところ少し馴染めません。回を重ねたある日、「無音」と云うテーマでお話下さったのが奥村一郎師でした。その夜の講話での驚きは、今でも忘れられません。無音(ムイン)。とても新鮮な響きです。初めて、これはただごとでは無いと直感いたしました。 師の穏やかな佇まいでの講話をお聴きして以来、徐々に或る磁場に導かれていったように思います。

その夜の講話の詳細は、古希を過ぎた今では記憶が薄れてきました。
講話の中で、老子、道元、ピカート等の言葉が語られたのですが、それはかつて私の心を捉えた書の言葉であり、師がそれらを素材に、自在に論旨を組み立て、普遍されていくのをお聴きし、唯ただ驚き圧倒されました。
要旨は、西洋の「言葉の世界」東洋の「沈黙の世界」と捉えて対比しながら聖書、老子「知者不言(ちしゃふげん) 言者不知(げんしゃふち)」、禅「不立文字(ふりゅうもんじ) 教外別伝(きょうげべつでん) 直指人心(じきしにんしん) 見性成仏(けんしょうじょうぶつ)」、道元禅師「現成公案(げんじょうこうあん)正法眼蔵第一」、マックス・ピカート「沈黙の世界」等の中に、無音の世界を考察するものだったと記憶します。

「沈黙の世界」佐野利勝訳(みすず書房)の中で、若かった頃の私を捕えたフレーズが在ります。「 黙って！ あなたの言葉が聞こえるように 」。とても新鮮に響きました。
普段わたしたちは、大きく茂った樹木の見え掛かりと同じだけ、地下にも根っこが広がっていることを忘れてしまっています。樹木の幹・枝・葉など地上に観える部分を「言葉」、地面の下の眼には見えない根っこの部分を「沈黙」と捉えると、それらを全てひっくるめて、神のはたらきの場と云えるのかも知れません。

奥村師は後に「呵呵大笑(かかたいしょう)」をテーマに講話を持たれました。
禅の悟りに至る道筋を、牛を主題とした十枚の絵で表現されてきた「十牛図」は
1. 尋牛(じんぎゅう) 2. 見跡(けんせき) 3. 見牛(けんぎゅう) 4. 得牛(とくぎゅう)
5. 牧牛(ぼくぎゅう) 6. 騎牛帰家(きぎゅうきか) 7. 忘牛存人(ぼうぎゅうぞんにん)
8. 人牛倶忘(にんぎゅうぐぼう) 9. 返本還源(へんぽんげんげん) 10. 入鄽垂手(にってんすゅ)

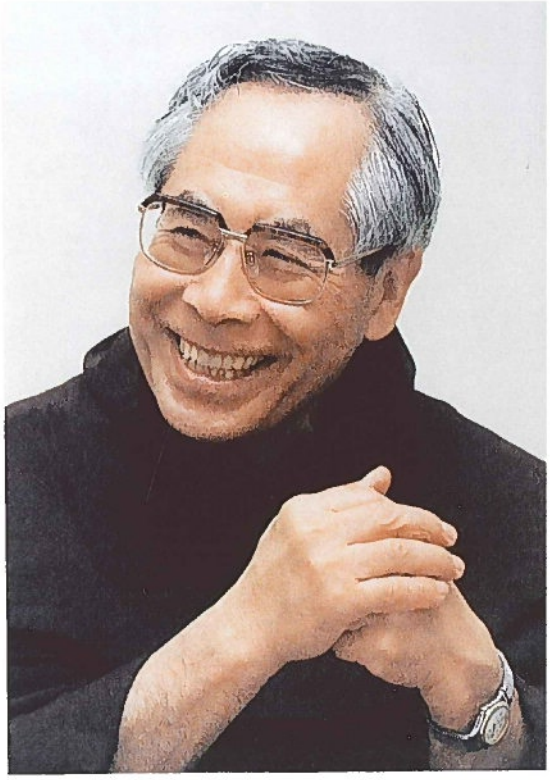
から成り立っています。 師は講話の中で、「呵呵大笑」の境地は 9. 返本還源 と 10. 入鄽垂手の世界の中に在る。 十牛図の「牛」は、キリスト教に当てはめると「愛」と置き換えられるものかも知れないと語られました。

また別の講話では、「出会い」をテーマにお話をされました。
当時、私のメモ帳には次の文字が書いてあります。
〈自己実現〉如何に自分を生かしていくか。
イエスの三年間は、出会いたくない者との出会い〈逆らいの印：シメオンの予言〉
1. イスカリオテのユダ 2. ユダヤ人長老、権力者、富める者
全てを受け入れていった。
人間は神をうらぎる自由を持っている
神の愛をも拒絶する自由が与えられている悲劇
神が先ず人を愛している
だから、神を愛することができる。
(※ このメモは、当時の私には理解の及ばぬ点もあり、誤記があったかも知れません)

又、余韻の残るこのようなお話もされました。
絵画や彫刻に観られる「ピエタ像」は、十字架から降ろされたイエス・キリストを腕に抱く、聖母マリアをモチーフとしています。しかし、単に母の子に対する哀れみ・慈悲を表現したものに留まらない。ピエタ Pieta という語(語源はギリシャ語)は、子供の親に対する心、清らかな愛、聖なる愛とも言える絶対的信頼を表す意味があります。イエスの悲惨な姿にもかかわらず、マリアは父である神への「父なる神に対する心のゆるし」という深い思いが表現されていることを忘れてはならないでしょう……、と呟くようにお話されたのが懐かしく思い出されます。 その数年後、私は師の導きによって、洗礼の恵みに与ることができました。

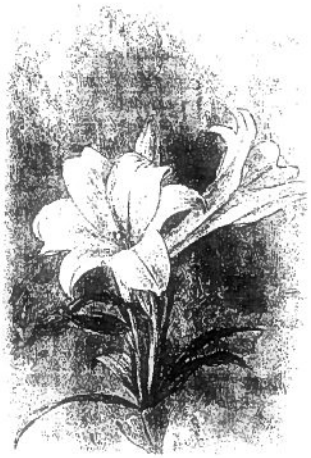
その後、師を囲んで道元禅師の正法眼蔵を読む「眼蔵会」を通して、東洋の霊性と西洋の霊性について勉強する場を持ちました。 師の数々の示唆に富むお話は、私の内なるものに光をあて、今でも絶えず生かし続けています…… ＋

上野毛教会信徒　天野 郁生



マリア・アウグスティヌス 奥村一郎神父(1923-2014)

心 の 泉



第二巻

第六章　正しい良心の喜び

２ 真の光栄

患難を誇りとするのは、神を愛する霊魂にとって困難なことではない。それは、主の十字架を誇ることだからである。人間が与え、また受ける光栄はつかの間のものである。この世の光栄にはつねに悲しみがつきまとっている。善良な人の真の光栄は、他人の判断にあるのではなく、その人自身の良心にある。誠実な人の喜びは、神から出たもので、そして神にある。誠実な人の快活さは、真理によるものである。永遠の真の光栄を望む人は、この世の光栄を顧みない。この世の光栄を求め、それを軽蔑しきっていないのは、天の光栄を十分に愛していない証拠である。世のはまれもあなどりも気にかけない人は、非常に静かな心を保っている。

３ 神は心を見る

心の清い人は、何にでも満足して安らかに生きる。人から称賛されても、そのために聖徳に進むわけではなく、軽蔑されても、そのために卑しくなるわけでもない。あるがままのあなたこそ、あなたである。そしてあなたは、神のみ前で、今ある以上に善良な者ではない。あなたの心のなかを反省すれば、あなたは人の言うことを気にかけないであろう。「人はうわべだけを見るが、神は心の底を見ておられる」(サムエル上 16・7)。人は外部のおこないを見るが、神は意向のいかんを見ておられる。つねに善をおこないつつ、自分を卑下するのは、謙虚な心の証拠である。この世のどんな被造物からも、慰めを求めようとしないのは、大いなる清さと、心に確信がある証拠である。

他人の賛同を求めようとしない人は、神に自分を任せきっている人である。聖パウロが言うとおり、「自分をほめる者ではなく、主がほめる者こそ、神に喜ばれる者である」(二コリント 10・18)。内的に神と一致して生き、外部のものにまったく束縛されていないのは、真に内的な人の状態である。

日々神と親しく生きるには

―７月―

このページが繰られる頃はまだ梅雨も明けないじめじめした日々が続いているのでしょうか。それとも青空に入道雲の夏日でしょうか。天候とともにともすると移りゆく私たちの心の動きをしっかりと「神の慈しみ」のうちにとどめておくことができますように。

自分でも愛せない惨めな自分自身からの開放、自由への門の鍵、このような鍵がはたしてあるのでしょうか。三位一体のエリザベットは、それは救おうとされるキリストへの信頼を深めることだと言います。「あなたのみじめさにこそ、神は慈しみの愛を注がれます」と。

> もしもあなたの性格が戦いの対象であるならば、どうか落胆しないでください。悲しまないでください。あえて言いましょうあなたのみじめさを大事になさい。そのみじめさにこそ神は慈しみの愛を注がれるのです。
>
> 一人の友人への三位一体のエリザベット　＊

エリザベットのこのメッセージは現代のわたしたちに深く響きます。自分のみじめさを見つめて落胆する代わりに、みじめな、つまらない、罪深いものであるがゆえに、その泥沼から救おうとされるおん父の慈しみの愛に信頼するのです。自分のみじめさのうちにとどまってしまわないで・・・・。

伊従　信子
ノートルダム・ド・ヴィ

＊『神はわたしのうちに　わたしは神のうちに』、聖母文庫、聖母の騎士社

人を赦す（10）

九里（くのり）　彰

「主の祈り」の中に、「わたしたちの負い目を赦してください。わたしたちも自分に負い目のある人を赦しますように」という言葉がある。以前は、「われらが人に赦すごとく、われらの罪を赦したまえ」という訳であった。

前の訳で唱えていた時、「この箇所にくると、いつも抵抗を感じる」という声を時折聞いた。それは、その人の心の中に、人間に人の罪を赦すことができるのかといった疑問や、人の罪を赦すことが自分の罪が赦される条件なのかといった疑問が生じてきたからであろう。

前の疑問は、イエスが「あなたの罪は赦される」と言って、中風の人を癒した時の律法学者のつぶやきに似ている。「この人は、なぜこういうことを口にするのか。神を冒涜している。神おひとりのほかに、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか」（マコ 2･7）。

この場合、中風の人とイエスとの間に何か争いがあり、中風の人がイエスに対して罪を犯していたということではないだろう。したがって、自分には関係のない中風の人の罪を、どうしてイエスが赦すことができるのだろうかという問いとなる。

しかし、「主の祈り」の場合、「われらが人に赦すごとく」という前の訳でははっきりしなかった点が、今の訳、「わたしたちも自分に負い目のある人を赦しますように」では、自分に対して何らか罪を犯した人を赦すのであって、自分とはまったく無関係の人の罪を赦すのではないことが明らかとなっている。自分に対してひどい仕打ち、侮辱の言葉を吐いたとか、嘘をついてお金をだまし取ったとか、約束を破り、損害を与える行動を取ったとか、いろいろであろう。

イエスは、「人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう」（マコ 2・10）と言って、中風の人を即座に癒す。この癒しの前に、「あなたの罪は赦される」と受動態でイエスは言っているのであって、「私はあなたの罪を赦します」と言っているのではない。赦す主体は、あくまでも神に留保された表現となっている。もちろん、「あなたの罪は神によって赦されるだろう」としても、人間であるイエスが、どうしてそう言えるのかといった疑問は生じてくるが……。

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（82）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

それらを火の中へ

この表題は、異端審問所の火刑宣告ではなく、私たちにはなかなか受け入れがたい十字架のヨハネの離脱した振る舞いを暗示しています。

修道士や修道女にすべてのことからの離脱、執着を捨て去ることを教えるために、『完徳の山あるいはカルメル山』のスケッチを描き始めた頃、聖人は、自分が執着しているものや愛着している対象について真剣に考えました。バエサからベアスへのある旅で、彼は聖テレジアの手紙を入れた袋を持ち運んでいました。彼は立ち止まり、旅仲間の十字架のヘロニモ修士にたずねました。

「どうして修道士に不必要なものを持つことが許され、平気でいられようか。どうして私はそれを持ち歩くのか。あの手紙を持って来なさい。そして神のために自由になりましょう」。

何のことか分からなかった私は、彼にこう言いました。

「あなたが考えられるように」。

彼は言いました。

「では明かりを持って来なさい。それで犠牲を捧げましょう」。私はそうしました。ヘロニモ修士は、苦悩しながらつけ加えています。「私に手紙を渡すように言わなかったことを思い出すたびに、もしかしたら、『神は賛美されますように』と私に言ったことが動機であったかもしれません」。

ある日、ヨハネはこの出来事を物語りながら、こう言いました。「心が何らかの被造物に執着しないよう、恐れをもって、すべてを断ち切りなさい」。

そう、「神は賛美されますように」。けれども私たちは、聖女のこれらの手紙を失いました。おそらくこれらの手紙は、聖女の書簡集の中で最上の部類のものであったに違いありません。

ヨハネ修士が書いた手紙の束を聖女が持っていたかどうか知りませんが、やはりそれらの手紙なしの聖女を、私たちは見出します。二人とも、似たりよったりです。

年間１４主日（A）　　みことばのひびき

（マタイ　１１：２５～３０）

本日の「神のみことば」を通して平和と慰めについて考えるように招かれています。このみことばは、神は力強く、しかも近づきやすい方であることを示しています。神は私たちの創造主でとても優れた方ですが、私たちに親しく個人的な関係で近づいてくださいます。

本日の福音でイエスはご自分の軛は負いやすく、荷は軽いと言われます。私たちは洗礼の秘跡で受けた恵みにより、新しく創造された者としてキリスト者の生活を生き、霊的に考えます。霊的に考えるとき、生きた信仰と希望を霊的な心をもって歩み、この世的に心配したり悩んだりしません。この聖書の節でマタイは、謙虚な人は真に神の民であるというイエスの考えを強調しています。大工であるイエスもその一人でした。この節でイエスは、知恵ある者や学識のある者には隠されていることが、幼な子のような者、単純な者には示されていることに対して神をほめたたえ始めます。この場合、知恵ある者、学識のある者とは恐らく律法やその実務について専門家であると認められている律法学者やファリサイ人です。 幼な子のような者とはほとんど名声を望むことのないイエスの弟子たちと関連づけられています。イエスがご自分の弟子として選んだ普通の人たちです。注意しなければならないのは、このメッセージが学問的追求や成果を咎めているのではないということです。こういうことは社会や教会で必要です。イエスが咎めているのは知的ごう慢です。イエスは無知と信仰を結びつけているのではなく、信仰と単純さや、謙虚さ、開かれた心、信頼などを結びつけているのです。神に自分の心を開き、神の声を聴き、謙虚で単純な人に示されるとイエスはおっしゃいます。

本日、私たちはイエスのところに来て、イエスだけがくださる休息を受けるようにというメッセージを頂きます。これは個人的な関係への呼びかけです。律法の非個人的な関係を取り去り、個人的な愛の関係に招き入れ、個人的な関係を与える喜びの生活に迎え入れてくださいます。イエスのご人性の中に入れて頂くことにより、重荷ではなく、完全な自由を発見します。イエスは私たちが肩に軛をのせ、イエスに従うように招いておられます。大工は軛が合わなければ痛みがあり、傷つくことを知っています。しかし、イエスの軛は傷をつけたり、傷あとを残したりすることはありません。イエスの軛は愛の軛で、決して痛みはありません。雪嵐の日に幼い子を背負った男の子を見て、かわいそうに思った人が「重いでしょ」というと、その子は「重くありません、この子は弟だから」と答えたという話を思い出します。同じようにイエスは私たち一人ひとりの重荷を背負ってくださいます。ですから、イエスがいてくださることだけで私たちの荷は軽くなるのです。

(Sr. Paulina)

「その日、イエスは家を出て、湖のほとりに座っておられた」(ﾏﾀｲ 13,1)。

この一見、平凡な言葉で、「マタイによる福音」の中核、神の国とその成長の秘義についてのたとえ話による重要な論述は、始められています。しかし、実に、神の国の秘義を語りうるものは、人間の言葉でではなく、イエスの生涯、受肉から十字架の死、そして復活に至る生き様以外にはないのではないでしょうか。それで、神の国の秘義についてのたとえ話も、頭脳で、人間の知的能力で理解しようとするのではなく、イエス、生きておられる方との心の共鳴で把握しようと努める者に、つまり、祈りの中で、イエスの生涯を観想する者に開かれてくるのでしょう。それで、この福音の箇所は、キリストのケノーシス、「キリストは神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(ﾌｨﾘﾋﾟ 2,6-9)を、また、「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」(ﾖﾊﾈ 12,24)を、背景にして読まれるべきものなのです。

このたとえ話には、神からの種、御言葉の種がたどる四種類の軌跡が描写されています。このような運命の分かれ道は、何に起因するのでしょうか。道端に落ちることも、石地に、あるいは、茨の多い土地に落ちることも、誰かの意図的な配慮によらない偶発的な出来事、災害、事故と言っても良いものかもしれません。いずれにせよ、このたとえ話の中心は、落ちたところの土壌の善し、悪しではなく、土地の状態を人間的知恵で考慮することなく、寛大に、無駄にされることさえも恐れずに、蒔きつづけるイエスの寛大さへの注目にあるのです。この神の寛大さの真意に眼を開かれることは、実に、わたしたち、自分自身には寛大な処置を求めつつも、隣人には寛大な心を閉ざす傾向にある人間には至難の業なのかもしれませんが。それで、わたしたちが、キリストの蒔く種を受容し、実を結ぶ良い土地であることは、自動的に確定しているものではなく、むしろ、そうなろうと望むことに、自分の力でそうなれるとするのではなく、神の無償の恵みに開かれることによってのみ、豊饒な良い土地に変えられてゆくと、神の「独り子を与える」無償の愛に信じ、希望をかけることに始まるのではないでしょうか。どのような状況、環境の中ででも、御言葉を生きようと決心する心構えに、豊饒な土地が開かれてきます。　　ルカ　渡辺幹夫

年間第十六主日（A）　（マタイ 13：24—43）

今日の福音でイエスは天の国についてたとえをもって説明してくださいます。それはこの世の時空を超えたものです。ギリシャ語では“basileia”という訳がなされています。これは王権、統治、支配という意味です；天の国は神の配慮のもとで、先ず一番に神の尊さが大切にされる環境であり、それに伴う人々相互の思いやり、愛の関係も組み込まれている状態です。日常生活の、ただ神を愛するために、神を喜ばせるためにという一つひとつの行いの価値は、最も奥深い人間としての価値であり、イエスのご生涯に映し出されているお姿にほかなりません。イエスは近づきやすい人の姿をとられた神の啓示そのものです。この啓示は真理、愛、同情、正義、他民族との連帯、相互の信頼と尊敬、人類全体の成長と発展に及んでいます。個人でまたは共同体で、イエスと共にこの啓示に従って生きようと努める人は神の国の人です。彼らはイエスが示された世界を築くための神の掟に結ばれています。それは特別なものではなく、今ここで行っている日常のことで、基本的には教会が召命とする生き方であり、教会共同体のメンバーであるわたしたち一人ひとりに与えられている召命の生き方でもあります。

今日の三つのたとえをみると、人の内面にある神の国の発展をはっきり理解することができます。神の国の建設は容易なことではありません。もつれた困難な仕事です。教会とその共同体の内外を問わず、善い人と悪い人、強い人と弱い人、心の清い人とそうでない人が肩をすり合わせている世界でのことです。ここに全く神聖な別世界を築いていくことは実行不可能であり、自滅的なことにも見えてきます。しかし初めはどんなに小さくても、天の国の精神と価値をしっかり踏まえそれに忠実でありさえすれば、目に見える難しい問題や障害は、危険さえも克服できると確信できるようになります。ついには、天の国、神の国の共同体は、たとえそれがどんなに小さくても、価値あるものとして受け入れられ、広められていく環境を整えていくとき、大きな影響を及ぼすことができます。一方、イエスは神の国を破壊する敵の存在を指摘なさいます。なぜ神に敵があるのかは語られていませんが、人は自由意志によって神から離れてしまう危険を持っています。神は人の自由意志を尊重なさるのです。

今日の典礼は、最高の力は外面的な虚栄の中にではなく、内面の真の姿にあることを深く悟らせます。それは個々の人間と、世の中全体を大きく変える神の力を反映しているものです。たとえは敵が撒く毒麦について語っています。これは復讐の行為としてローマ法では禁じられていることですが、現実には、当時の農夫たちの収穫までの様々の辛労を表わしたものでしょう。神は善人にも悪人にも、その刈り入れの時、世の終わりまで慈しみを注いでくださいます。わたしたちもこの神の心をもってイエスと共に神の国を広めていくよう呼ばれています。今日特別に教会のために祈りましょう、わたしたち一人ひとりの内なるイエスの現存の許で、天の国の真の発展を経験していくことが出来ますように！

(Sr. Paulina)

「畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う」(ﾏﾀｲ 13,44)。

畑に隠されていた宝を偶然発見した人の取る行動が、良い真珠を探していて見つけた商人が取る決断と平行している、ただし、商人は、意図的に探す努力をするのであるが、隠された宝を発見した人は、まったく期待も、なんの努力もしていなかった状況の中で、偶然といってもよい幸運で、まったくの無償の恵みによって、宝を発見しています。それで、これらのたとえ話で強調されるのは、宝、真珠に遭遇するまでのその人の努力、精進ではなく、その宝、真珠の発見後に取った行動、態度、きっぱりとして決断、以前の生き方とのきっぱりとした決別なのです。宝、真珠の発見、遭遇は、これほどの転換を引き起こす力を秘めています。この宝、真珠とは何を指し示すたとえなのでしょうか。これらの二つの用語は、旧約においては、「神の知恵」、神との親しい交わりに導くものを指しています。「わたしのもとには富と名誉があり、すぐれた財産と慈善もある。わたしの与える実のりは、どのような金、純金にもまさり、わたしのもたらす収穫は、精選された銀にまさる」(箴言 8,18-21;ｲｻﾞﾔ 33,6)、「知恵によって得るものは、銀によって得るものにまさり、真珠よりもとうとく、どのような財宝も比べることはできない」(箴言 3,14s;8,11)。

わたしたちにとっての「神の知恵」、それは、十字架の愚かさに他なりません。「十字架の言葉は、滅んでゆく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です」(1 ｺﾘﾝﾄ 1,18)。イエスの十字架が、むしろ、十字架そのものと言うよりは、十字架上のイエス、十字架の死を受容し生きているイエス、この方が、神の究極の言葉なのです。十字架のイエスにわたしたちを救う究極の言葉を発見すること、それは、結局は、人間の努力、修行の帰結としてではなく、まったくの神からの恵み、無償、無前提の恵みと体験されるものではないでしょうか。その人が、それほど自発的に、どれほどの時間をかけて、労力を費やして、探求したとしても、「十字架の言葉」に遭遇するときは、その邂逅は、まったくの無償の恵み、自分はそれにふさわしくない賜物と、自覚するのではないでしょうか。自分の無力さ、値しない虚無さ、これを真摯に告白することに導かれているとき、宝を、真珠を見出している、と真実に言えるのでしょう。そして、それは、新しい生き方の出発点となります。表面的ではなく、まやかしではない真摯なイエスへの信従が始まるのです。　ルカ　渡辺幹夫

いま会う　また会う　　石原淳子

桜の花が散り終わる頃に柔らかな芽吹きが始まり、はじめは固い梢に沿って霞むような色合いでちらちらと粒状であったのが、やがて日を重ねて形状は密になり色も深まって広がり、季節は若葉青葉へと移りゆきます。

昨年のこの季節に当誌に「若葉の中の静かな日」と題して一人の友Ｓのことを記しました。　陽ざしを浴びて輝く若葉の横溢の中で、不治の病を得たことを語るＳの声を聴いて、たとえようのない深い静かさへと落ちていったこと、そしてイエズスの静かさと深さに出会う思いを書き留めました。

あれから再びめぐってきた若葉の季節に、奇しくも同じようにしてＳの電話を受けたのです。　病の再発の知らせでした。　会いに来てほしいの　顔を見て話ができるのは　きっと今が最後と思うので　会っておきたいの　　Ｓの声はあの日と同じ静かさをたたえていましたが、そして切なげではありましたが、同時に或る明るさも感じられて、私は救われる思いでした。

沿線の急行の止まらない小さな駅に降り立ったのは、この季節には早すぎる夏のような太陽の光が満ちる汗ばむような日でした。

小高い丘の上をめざして日傘を傾けただひたすらに坂道を上りました。　通りすがる道々には今を盛りと薔薇の花が咲き出でて、どの家にも必ずといっていいほどさまざまに薔薇があり、豪華なアーチ作りやフェンスからこぼれ落ちる可憐な風情の野ばらと、まるでパレットの絵具のように賑やかで薔薇園を歩いているようでした。

上りきった丘の上は四辻になっていて信号がありました。

左右を見渡しても人影もなく自動車も見えず、あくまでも明るい陽の光と点在する樹木の繁りの他は何もなく、妙に静まり返っていて、あたかも一幅の絵画の中に入り込んでしまったかの感がありました。　　信号は赤だったのですが私は道を渡りました。

うれしくてはりきってると気力も体力も出てくるの　と笑顔で迎えてくれたＳは意外にも驚くほどに元気でした。

画家であり美術の先生であった亡き夫君のアトリエに小さな仏壇があり、私も顔見知りの夫君の写真と花とコーヒーが供えてありました。主人はコーヒーが大好物だったのとＳは云い、石原さんですよと呼びかけ写真に指をそっと添わせました。

夫君の逝去からまだ一年半です。直後にＳ自身の病がわかり、追われるように

して再発の告知です。　線香に火を点じてＳをどうぞ守ってくださいと手を合わせ涙が溢れました。　Ｓも隣で手で顔を覆いました。

ボランティアの仲間として志を同じくして 20 年余りの歳月が浮かび上がり、苦楽を共にした切磋琢磨の日々がよみがえります。　私は今日の日こそ、今の時こそが最もＳを近しく親しく感じられる気がして、かつての日々の充実をあらためて思い、今日のこの時を真に恵みの時として心深く受けました。

死ぬという話もしました。　神さまの話もしました。　　わたしは信仰者としてのあなたから大きく影響を受けたのに　わたし自身はキリスト教に入れなかったの　とミッションスクール出身のＳは云いました。　でも覚えておいてねキリストを信じるあなたを大事に思ってるのよ。

何をどれだけ語り合ったのでしょうか。　思わずして長い時間が経っていることにびっくりしました。　茫々としたつかみようのない時間のようでもあり濃密な確かな時間のようでもありました。　主人と同じにわたしも来ていただくようなお葬式はしないから　と最後にＳは云いました。

二人ともほんとうに無力でした。　すべてここに在るままを受けとって同時に委ねるしかすべはありません。　大丈夫よ　大丈夫よと互いに抱き合って少し泣きました。　　外に出て、道を曲がるまで幾度ふり返ってもいつまでも手を振って見送ってくれていたＳの姿を、私は忘れることはないでしょう。

薔薇の花咲く坂道をぼんやりとゆっくりと下りました。

二人がすごした今の時間が別次元の出来事のように思えて、ふっと意識が揺れさまようようでした。　現実感を失ったかの景色の中を私は自分の魂を抱いて坂道を下りつづけました。　バッグに入っていたロザリオを手に握りしめてとりどりの薔薇の花を虚ろに眺めて歩きました。　　手紙や電話の約束をしたけれど、もはや再び会うことはない。・・恵みあふれる聖マリア。　今日会ったのは別れなのだ。・・・恵みあふれる聖マリア。

坂の下方に駅舎が見えて、高架線を電車が走るのを我に返る思いで凝視したとき、突如何もかもが調和する世界がスクリーンに映しだされるかに全身に広がり、目の前に広がりました。

いつの日かまた会う。

私は息を深くついてロザリオの珠をひとつ進めました。

いのちの言葉　7月

はっきり言っておくが、どんな願い事であれ、
あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、
わたしの天の父はそれをかなえてくださる。
二人または三人がわたしの名によって集まるところには、
わたしもその中にいるのである。

（マタイ 18・19-20）

これはイエスのみ言葉の中でも、特に心躍らされる言葉の一つでしょう。

生活に必要な多くのことをどう解決すればよいか、正しいことや良いことを望んでもそれをどう実現すればよいか、わからない場合がどれほどあるでしょう。自分が心から望んでいることも、神様の介入と天の恵みがあればこそ実現するのを、あなたもよくご存じでしょう。ここで、イエスは希望と約束に満ちた言葉を、揺るぎない確信をもって、はっきりとあなたに繰り返しておられます。

福音の中でイエスが祈るよう何度も勧め、どうすれば祈りがかなえられるかを教える個所を、あなたも読んだことがあるでしょう。でも、今月とりあげるみ言葉の独自性は、天の答えを得るためには、複数の人、共同体が必要であるということです。イエスは「あなたがたのうち二人が」と言われますが、これは共同体を築くための必要最低限の人数です。イエスにとっては、人数よりも、信じる人が複数いるということの方が大切なのです。

ユダヤ教でも、神様は集団で捧げる祈りを評価されると言われますが、イエスの言葉には、一層新しい点が見られます。「あなたがたのうち二人が…心を一つにして」とあるように、イエスは複数の人をお求めになるのに加え、彼らが一つになっていることを望んでおられます。皆が思いを一つにし、ただ一つの声となるよう、お望みなのです。

何を願うかについても同意が必要でしょうが、何よりも、その願いが皆の心の一致を土台とする必要があります。実際イエスは、願いがかなえられる条件は、人々の間の相互愛であると明言されます。

はっきり言っておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。

「一致の内にする祈りは、なぜ御父のみもとに届くのだろう」と思われるかもしれません。

それは、より清められた祈りになるからでしょう。実際、多くの場合、私たちは父に対する子の態度というより，王に対する物乞いのように、祈りの中で自己中心的な要求を並べ立ててはいないでしょうか。

一方、他の人と共に願う時には、私利私欲からくるものは確かに少なくなるでしょう。他の人と一緒なら、私たちは相手の必要性を感じ、それを分かち合うことがもっとできるでしょう。

それだけではありません。二人三人でいる時には、御父に何を願ったらよいかがより良くわかるでしょう

ですから、祈りを聞き入れていただきたいなら、イエスのお言葉通りにするのがよ

いでしょう。

まことに私は言う。あなたたちのうちの二人がこの地上で心を一つにして何かの願いごとをするなら、天におられる私の父はそれをかなえて下さるだろう。私の名によって二，三人が集まるところには、私もまたそこにいる。

イエスご自身、この祈りの持つ力の秘密がどこにあるかを語っておられます。すなわち「わたしの名によって集まる」という部分です。この一致がある時、私たちの間にはイエスがおられ、彼と共に願うすべてのことは、より容易にかなえられます。実際、人々が相互愛によって心を一つにしているところにイエスは存在され、私たちと共に御父に恵みを願ってくださいます。御父がイエスに耳を傾けられないことはありえません。御父とキリストは一体でおられるからです。

これはすばらしいことで、私たちに確信と信頼を与えてくれるでしょう。

今あなたは、自分が何を願うことをイエスがお望みか、知りたいと思われることでしょう。それについては、イエスご自身が「どんな願いごとであれ」とはっきり言っておられ、限界はありません。

では、生活の中にこの祈りを取り入れましょう。もしかしたら、これまであなたが願わなかったために、家族やあなた自身、友人や所属する団体、祖国や周囲の環境でも、多くの助けが与えられていないのかもしれません。

親しい人やあなたを理解しくれる人、同じ理想を持つ人と心を一つにし、福音が命じる相互愛を生きる決心をしましょう。そしてイエスが共にいてくださるよう、互いに一致してから、願ってみましょう。ミサの中、また教会でも、どこにいても、何かを決心する前にも、どんなことでも願ってみましょう。せっかくイエスは私たちに多くの可能性を与えてくださったのですから、それを大切に実践し、イエスをがっかりさせないようにしましょう。

こうして、人々にはほほえみが戻り、病気の人は希望を持つようになるでしょう。子供たちはより守られて成長し，家庭での関係も調和あるものとなるでしょう。私たちは自分の場所にとどまりながらも、大きな問題の解決に取り組んでゆけます。

このように生きる時、私たちは天国を得るでしょう。生きている人、亡くなった人の必要のために祈ることは、私たちが人生を終えて神様の前に立つ時に問われる、憐れみの業の一つに他ならないからです。

キアラ・ルービック

＊今月の言葉は1981年9月に発表されたものです。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ

いのちの言葉の集い

関東　　７月１３日（日）13：30～ 神奈川　ｶﾄﾘｯｸ藤沢教会 204 号室

（週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも）

中部　　７月６日（日）14：00～ 愛知 瀬戸市本郷町東・喫茶室「遊夢」

近畿　　７月１３日（日）13：30～ 大阪 ｶﾄﾘｯｸ香里教会

長崎　　７月２７日（日）14：00～長崎 ｶﾄﾘｯｸ浦上教会　要理教室

＊諸事情により、今年の夏のマリアポリは お休みさせていただきます

＊詳細は各ﾌｫｺﾗｰﾚ・ｾﾝﾀｰまで。

連絡先
フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
ホームページ：フォコラーレで検索
http://focolare.world.coocan.jp/

ヘンリ・ナーウェンの旅路の糧（178）

交わりの生活の実り

私たちの社会は、個人主義を奨励しています。私たちが考え、言い、行なっているすべてのことは、個人的注目を受けるに値する個人的業績であると絶えず信じ込まされています。けれども、私たちは、聖人の交わりに属する者として、霊的価値を持つものはすべて、個人的行為の結果ではなく、彼らとの交わりの生活の実りであると知っています。

神や神の愛について知っていること、イエスやその生涯、死、復活について知っていること、教会やその奉仕について知っていること、これらはみな、報いを求める私たちの心の発明ではありません。それは、イスラエルの民や預言者から、イエスや諸聖人から、また私たちの心の形成において大きな役割を果たしたすべての人々から、時代を越えて私たちのところにやってきた知識です。真の霊的知識は、聖人の交わりの領域に属するのです。

（1114）

教会の柱

二つの主な秘跡、洗礼と聖体は、教会の霊的柱です。それらは、教会がその奉仕を行うための単なる道具ではありません。それらは、私たちが教会のメンバーとなり、メンバーとしてとどまる手段であるばかりでなく、教会の本質そのものに属しているのです。これらの秘跡なしには、教会は存在しません。教会は、洗礼と聖体によって作り上げられたキリストの体なのです。人々が父と子と聖霊のみ名によって洗礼を授けられる時、また人々がキリストの食卓の周りに集まり、御血と御体をいただく時、彼らは教会と呼ばれる神の民となっているのです。

（1015）

（九里　彰訳）

跣足カルメル修道会HP（International）

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com

ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
・CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO・

<< **Communications**（時事通信）>>

アウグスティヌス奥村一郎神父OCDの帰天

２０１４年６月５日

オスカー・アパリシオ神父、OCD 公文書管理局長

マリア・アウグスティヌス 奥村一郎神父(1923-2014) は、禅仏教とキリスト教信仰との類似点と対話を探究した最初のカトリック神学者の一人でした。この主題についてのインタビューの中で、「私が選んだカルメル会の体験の中にある深淵は、禅との絶えざる交わりの内にあります。私は現にキリスト者ですが、禅を行うことを止めていないし、仏教にある際立った広い霊性を評価しています」と述べています。

彼のもっとも有名な著書である「祈りの味わい」は、英語、イタリア語、スペイン語、フランス語、ドイツ語など多くの言語に翻訳されています。

彼は、最初の日本人跣足カルメル会士の一人でした。１９２３年４月に岐阜県で生まれ、１９５３に跣足カルメル会士として誓願を立て、１９５７年に司祭に叙階されました。彼はフランスとイタリアのローマで学びました。日本の跣足カルメル修道会の総長代理に三度選出され、カトリック系大学の学長も務めました。

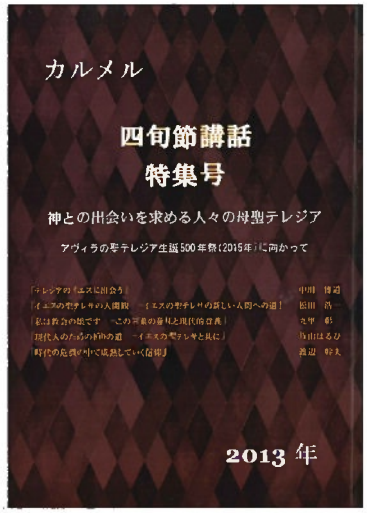
奥村神父が８１才になったとき、ある記者は彼のことを次のように述べました。「ほっそりした体つきで、礼儀正しく、年齢のわりにはしっかりした声である。医者がかつて奥村神父に、六月までもたないであろうと言ったことを、さも面白そうに話された」。彼は、その後１０年も長生きされました。

次のアドレスにより、奥村神父の思想を知ることができます。
http://www.stpauls.it/jesus06/0412je/0412je60.htm

アウグスティヌス 奥村一郎神父が主の平和の裡に安息に入られるようお祈り申し上げます。

「カルメル」
今日の霊性・夏号
四旬節講話特集号

2014 夏 No.353



カルメル 2013 特集号

「神との出会いを求める人々の母聖テレジア」

● 目次 ●

テレジアのイエスに出会う　中川博道　2
イエスの聖テレサの人間観 ――イエスの聖テレサの新しい人間への道　松田浩一　12
「私は教会の娘です」 ――この言葉の意味と現代的意義　九里彰　24
現代人のための祈りの道 ――イエスの聖テレサと共に　片山はるひ　37
時代の危機の中で成熟していく信仰　渡辺幹夫　51

目次

『今年の特集　聖テレジアと他の聖人たち』
自分の内に生きることなく生きる ――テレジアの詩とヨハネの詩 (2)　九里彰　3
二人の聖テレジア ――イエスの聖テレサと幼きイエスの聖テレーズ　伊従信子　9
エディット・シュタインと聖テレサ ――「私に従いなさい」がもたらす喜びと苦悩 (2)　須沢かおり　17
修道院の窓から ――ミサに与るとは (4)　原造　25
聖なる冒険 (2)　ポーリン・フェルナンデス　29
福者ルイとゼリー ――幼いイエスの聖テレーズの両親 (1)　中山眞里　39
ローマ物語 ――ローマでの養成 (2)　高橋重幸　44
西行と芭蕉の霊性 ――「閑かさ」の楽しみ (4)　田畑邦治　50
神が慈しまれた道 (2)　奥村一郎　56

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）定価は、一冊４６０円です。

● 送付ご希望の方は、６００円【内訳 ４６０円（＋送料１４０円）】を下記へお振込み下さい。

● まとめてご購入希望の方は、年会費（年５冊：春夏秋冬号・特集号【４６０円×５＝２，３００円】＋ 送料【７００円】計 ３，０００円）を下記へお振込み下さい。

郵便振替：００１９０－４－１９５４５７　跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。
ＴＥＬ（０３）５７０６－８３５６

カルメル会の企画案内

上野毛霊性センター　～‘１５年３月

黙想企画　＊＊　上野毛聖テレジア修道院（黙想）　＊＊

１．木曜黙想会　（毎回木曜日１０時～１６時）昼食つき

お申込みは３か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

９月１１日	聖体の秘跡	ベルナルド神父
１０月　９日	人となられたみことば	九里　彰神父
１１月１３日	キリストのからだなる教会	福田正範神父
１２月　４日	無原罪のマリア	九里　彰神父
２０１５年		
３月　５日	洗礼と主の晩餐	福田正範神父

２．金曜黙想会 カルメルの霊性（毎回金曜日１０時～１６時）昼食つき

お申込みは３か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

１０月３１日	永遠の命への憧れ　聖テレジア	九里　彰神父
２０１５年		
１月１６日	聖テレジア・ベネディクタ（エディット・シュタイン）	福田正範神父

３．奉献生活者の為の黙想会

８月　１日（金）１８時～　８月１０日（日）	九里　彰神父
８月１５日（金）１８時～　８月２４日（日）	福田正範神父
１０月１０日（金）１８時～１０月１９日（日）	福田正範神父
１２月２７日（土）１８時～２０１５年１月５日（月）	福田正範神父

４．青年黙想会(男女)　　福田正範神父、カルメル会士

１１月２２日（土）１５時～２４日（月・振休）１６時

５．召命黙想会(男女)　　福田正範神父、カルメル会士

９月１３日（土）１５時～１５日（月・振休）１６時

６．特別黙想会　伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

１１月　１日(金)２０時～　３日(月)１６時「慈しみの愛と祈り」

７．祭日のミサに参加するために

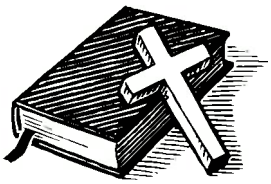
【クリスマス】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

２０１４年１２月２４日(水)～２５日(木)《講話なし、夕食なし》

８．聖週間前の黙想会

２０１５年

３月１９日（木）１８時～２２日（日）１６時「十字架の神秘」　福田正範神父



電話でのお問い合わせは午前 9 時から午後 4 時 45 分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、
なるべく FAX・はがき・Ｅメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25　聖テレジア修道院（黙想）
TEL　03－5706－7355　／　FAX　03－3704－1789
E-mail：mokusou@carmel-monastery.jp

Ordo fratrum Beatæ Virginis Mariæ de monte Carmelo

Alleluia

カトリック上野毛教会の保護者

カルメル山の聖母を祝うミサ

【７月１３日（日）　10時30分ミサ】

ミサ後　スカプラリオ授与式［聖堂］

お祝い会［信徒会館ホール］

スカプラリオをご希望の方は
当日お申し込みください

７時・８時半・１８時のミサは通常の主日のミサ

カルメル山の聖母の祭日ミサ

【７月１６日（水）】

＜6時30分＞＜１０時ミサ＞

＜１９時30分　晩の祈り（歌）とミサ＞

10時ミサ・19時30分ミサ後のみ

スカプラリオ授与式［聖堂］

当日お申し込みください

カトリック上野毛教会
カルメル修道会上野毛修道院

木曜黙想会

「聖体の秘跡」

日　時：　２０１４年9月１１日（木）　１０時～16時

指　導：　ベルナルド　師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場　所：　カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会　費：　　￥３５００（昼食を含む）

お問合せ・・・ＴＥＬ　03-5706-7355
FAX　03-3704-1789
Ｅメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・＊黙想会の３か月前より申込みを受付します
ＦＡＸ、メール、ハガキにてお願い致します。
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛２-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

2014年～2015年　黙想会案内（宇治カルメル会）

【一般のための黙想】

・1泊2日（午後 5 時～午後 4 時）

	7月 12日(土)～ 13日(日)	聖母マリア	中川博道神父(変更)
	9月 6日(土)～ 7日(日)	神の慈しみの歌	松田浩一神父
	11月 1日(土)～ 2日(日)	死についての黙想	~~今泉健神父~~中止
2015年	1月 10日(土)～ 11日(日)	神の栄光・生きている人間	松田浩一神父

【聖書深読黙想会】

・1日　（午前 10 時～午後 4 時）

	9月 13日(土)	九里彰神父
	11月 29日(土)	九里彰神父
2015年	2月 7日(土)	九里彰神父

【水曜の黙想】

・1日　（午前 10 時～午後 4 時）

	7月 23日(水)	キリストの教え(神の救いへの参加)	松田浩一神父
	~~9月 17日(水)~~ 9月 24日(水)	福音的な小さい道	渡辺幹夫神父(変更)
	10月 8日(水)	キリストの教え(神と共に歩む)	松田浩一神父
	11月 12日(水)	死者の月に祈る　人生の秋	中川博道神父(変更)
	12月 17日(水)	テレサと祈り	松田浩一神父
2015年	1月 14日(水)	神の国は近づいた	~~今泉健神父~~未定
	2月 11日(水)	キリストの教え(神と人間の尊厳)	松田浩一神父
	3月 25日(水)	神のお告げ	~~今泉健神父~~未定

【四旬節の黙想】

・1泊2日　（午後 5 時～午後 4 時）

2015年　2月 28日(土)～3月 1日(日)

3月 28日(土)～3月29日(日)

【待降節の黙想】

・1泊2日　（午後 5 時～午後 4 時）

2014年　12月13日(土)～12月14日(日)　神の子の誕生　九里彰神父

【聖テレーズの黙想】

・1泊2日　（午後 5 時～午後 4 時）

2014年　　9月30日(火)～10月　1日(水)　　伊従信子師

【カルメル青年の集い】

・1泊2日（午後 5 時～午後 4 時）

~~11月 23日(土)～11月24日(日)~~
11 月 15 日（土）～11 月 16 日（日）　神の慈しみの体験（イエスの聖テレサと共に）　松田浩一神父（変更）

【一般のためのカルメルの霊性入門】

・1泊2日（午後 5 時～午後 4 時）

10月　14日(火)～10月　15日(水)　イエスのテレサ生誕 500 周年開始　　松田浩一神父

【奉献生活者の黙想】

（午後 5 時～午後 9 時）

2014年　7月31日(木)～　8月　9日(土)　　松田浩一神父
8月19日(火)～　8月29日(金)　　中川博道神父（変更）
12月27日(土)～　1月　5日(月)　　松田浩一神父

『社会人（働いている人）のための霊的同伴』　→　別紙参照

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】　　チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(水)～12月25日(木)　{講話なし、各食事つき}

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会, 個人黙想も歓迎いたします。－

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけ FAX、はがき、E メールで お名前と連絡先を御記入の上、 お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前９時～午後５時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
Tel　0774-32-7016 ， Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

カルメル会宇治修道院の祭日ミサの御案内

カルメル山の聖母の祭日：7月16日〈水〉

早朝ミサ：午前6時半～7時半

日中ミサ：午前10時～11時半

(1) 午前10時よりミサ
(2) 午前10時45分より＜聖母のスカプラリオ＞を説明
(3) 望む方は、スカプラリオの着衣式を行ないます
(4) スカプラリオの信心の更新（着衣された方のため）

場所：カルメル会宇治修道院（修道院聖堂）

司式：いずれもカルメル会士です。

【所在地・連絡先】 〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山39-12
男子跣足カルメル修道会宇治修道院
TEL 0774-32-7456　FAX　0774-32-7457

【交通機関】① JR奈良線　六地蔵駅下車　徒歩15分
タクシー乗り場あり。
② 京阪六地蔵駅　タクシー　7分
③ 京都市営地下鉄　六地蔵駅　徒歩15分

聖テレーズの黙想会

２０１４年９月30日（火曜日）５時――10月１日（水曜日）４時

～テレーズとともに祈る～

「わたしは死ぬのではありません。　命に入るのです。」

平凡な日常生活で　テレーズとともに

真の命を生きるために静かなひと時をもちませんか？

指導：伊従　信子（いより　のぶこ）
参考書：　聖書（新約）、「弱さと神の慈しみ」伊従信子編著（サン・パウロ社）
参加費：　６５００円
申し込み：宇治カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
６１１－００２　宇治市木幡御蔵山３９－１２
Tel 0774-32-7016.　Fax　0774-32-7457
e-mail:teresiauji @mountain.ocn.ne.jp

『社会人（働いている人）のための霊的同伴』
―日常のキリスト教霊性を求めて―

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴（スピリチュアル・コーチング）**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

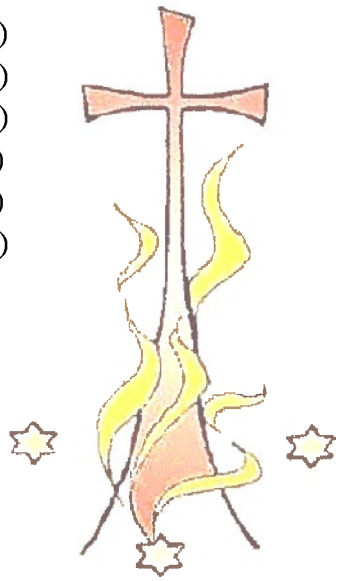
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点（**霊的理解**）を促進しますので、この静かな一時の中で短い**個別同伴**（一人 30 分）を行います。
- メソードの一つとして**スピリチュアル・コーチング**を適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】　6 人

【開催日】

① 2014年　1月24日（金）～25日（土）
② 2月21日（金）～22日（土）
③ 3月28日（金）～29日（土）
④ 6月 6日（金）～ 7日（土）
⑤ 7月 4日（金）～ 5日（土）
⑥ 9月12日（金）～13日（土）
⑦ 10月 3日（金）～ 4日（土）
⑧ 11月 7日（金）～ 8日（土）
⑨ 12月 6日（金）～ 7日（土）



（毎回金曜日　20 時（夕食なし）～土曜日 15 時）

【参加費】　各回 6，500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父（カルメル会士）

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院（黙想）へ FAX、はがき、E メールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39－12
カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）
Tel　0774－32－7016、Fax　0774－32－7457
E-Mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

霊性センター

毎月第一日曜日　三馬教会　聖堂

１４：３０～講話

１５：３０～ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日　三馬教会　聖堂

１３：３０～聖書朗読、短い講和

１４：３０～ベネディクション、聖体顕示

１５：３０～聖体拝領

１６：００～サルヴェレジナ、終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921 - 8162

金沢市三馬 3 丁目 324 番地

カルメル会　三馬修道院

三上　和久神父まで

Tel　076 - 276 - 7788

2014年度　名古屋カルメル霊性センター《都会の中の一日静修》

2003年から始まりました《都会の中の一日静修》は、今年で12年目を迎えることになりました。

カルメル会は、今その聖女、イエスの聖テレサ（アヴィラの聖テレジア）の生誕500年（2015年）を祝おうとしています。そのために、世界のカルメル会は聖女の著作を読み返しながら、その霊性を味わおうとしています。

幸いなことに、日本のカルメル会も、昨年および一昨年の四旬節講話で、聖女の霊性をいろいろな視点で味わい深めて、参りました。それらを振り返りながら、いろいろな切口で、聖女の霊性の中に浮かび上がるカルメルの霊性、さらにはキリスト者としての霊性を味わい深めることができたらと願っております。

《２０１４年度の年間テーマ》

「聖テレジア（アヴィラ）の私たちへのメッセージ」
—2015年：生誕500年に向かって—

第1回静修　1月13日（月・祝）　『テレジアが出会ったイエスを訪ねて』
中川博道神父（上野毛修道院）

第2回静修　3月1日（土）　『霊魂の城』
今泉健神父（宇治修道院）

第3回静修　5月31日（土）　『小品集』
古川利雅神父（上野毛修道院）

第4回静修　7月21日（月・祝）『私は、あなたのために生まれた』：
：人間の召命に生きる　松田浩一神父（宇治修道院）

第5回静修　9月23日（火・祝）『アヴィラの聖テレジアと祈り』
Sr. Paulne（宣教カルメル会修道院）

第6回静修　11月3日（月・祝）『テレジアと出会った十字架の聖ヨハネ』
九里彰神父（本部修道院）

＊　時間　AM10:00～ＰＭ４：００

＊　場所　カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約５分
聖テレジア幼稚園隣接

＊　参加費　1,000円

＊　持ってくるもの　聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当など

＊　定員　約３０名

＊　プログラム

１０：００～	祈り・導入・黙想
１０：３０～	講話（１） 黙想・赦しの秘跡または面接
１１：５０～	昼の祈り・お告げの祈り
１２：15～	昼食
１３：００～	黙想・赦しの秘跡または面接
１３：３０～	講話（２）
１４：４５～	ミサ
１５：３０～	茶話会・分かち合い
１６：００～	終了予定

☞申し込みは、下記の住所へハ　ガキかFAXで、氏名･住所・TELなどを記載の上、（信徒の方は所属教会も記入）開催日の３日前までに、下記へご送付ください。

なお、日比野教会で葬儀などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆カルメル会日比野修道院

〒４５６－００６２　名古屋市熱田区大宝４－５－１７

FAX 052-671-1825

☆　問い合わせ先

小林　TEL052-701-3685

聖書深読センターのご案内

１　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
２　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち１箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

１　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：６ヶ月 18,900 円（４、７、10、１月に納入）　継続の場合は 16,900 円

講師：九里彰師（奇数月）　今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局　Ｓｒローザにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
所長：奥村一郎神父　　事務局長：今泉健神父　　連絡先：Ｓｒローザ
ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内

心のいほり　内観黙想センター
真命山　霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、 開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。 電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572－0001 大阪府寝屋川市成田東町3－27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2014年予定

T1 7/25（金）-7/31（木）兵庫西宮・女子トラピスチヌ
M2 9/9（火）-9/15（月）宝塚売布・女子御受難会
K4 9/27（土）-10/3（金）東京･小金井･聖霊会
S2 10/5（日）-10/11（土）千葉白子・十字架 イエスベネデイクト会
N3 10/26（日）-11/1（土）滋賀唐崎・ノートルダム
K5 11/29（土）-12/05（金）東京･小金井･聖霊会

2015年予定

K1 1/17（土）-1/23（金）東京･小金井･聖霊会
M1 2/7（土）-2/13（金）宝塚売布・女子御受難会
N1 2/23（月）-3/1（日）滋賀唐崎・ノートルダム
K2 3/14（土）-3/20（金）東京･小金井･聖霊会
N2 4/30（木）-5/6（水）滋賀唐崎・ノートルダム

真命山　2014年 － 祈りの集いのご案内

真命山の霊性

自然　神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから陽の沈むところまで　祈り

静けさ　沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を分つ　交わり

祈りの集い（午前10 時～午後3 時）

「聖母マリアと共に祈る」

1月 9日	天使からのお告げをお受けになった時の聖母マリアの祈り
2月13日	エリザベットを訪れられた時の聖母マリアの祈り
3月13日	神の子イエスをお産みになった時の聖母マリアの祈り
4月10日	羊飼いたちや博士たちの訪問をお受けになった時の聖母マリアの祈り
5月 8日	聖ヨセフと共に神殿に登ぼり、イエス様をお捧げになった時の聖母マリアの祈り
6月12日	聖ヨセフと共にエジプトへ逃れられた時の聖母マリアの祈り
7月10日	聖ヨセフと共に神殿でイエスを見つけられた時の聖母マリアの祈り
8月	休み
9月11日	ナザレで聖ヨセフとイエスとご一緒の時の聖母マリアの祈り
10月 9日	イエスを探しに行かれた時の聖母マリアの祈り
11月13日	イエスの十字架のもとでの聖母マリアの祈り
12月11日	イエスの弟子たちと共に祈られた時の聖母マリアの祈り

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）
ダニエレ　サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア　デ・ジョウルジ

申し込み先
865－0133
熊本県玉名郡和水町1391－7
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
TEL　0968－85－3100
Fax　0968－85－3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp
www.shinmeizan.org
個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内　２０１４年

●キリスト教入門講座
金曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
●キリスト教理解講座
毎月第1・第3・第5火曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。
●土曜アカデミー　以下の土曜日、
9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP（文末）を見て下さい。

2014年度のテーマ: 超越理解と理性の自己発見 — II 近世・近代・現代
「中世：哲学・神学・神秘思想」(9世紀－15世紀)
[中世末期]
07/05,07/12,07/26,09/06,09/13,09/27,10/18,10/25,11/08,11/15,11/29,12/06,12/20,　2015年01/10,01/17,01/24,01/31,02/07
●ミサ
水曜日 17時10分－18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂
●黙想
・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分－20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分－12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
　どなたでも。但し祝日、8月5日は休み。
・水曜日 18時－18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。
　どなたでも。但し祝日、4月30日、7月30日、8月全体、12月24日は休み。
・「通う霊操」8月23日(土)－8月31日(日)18時－20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い
・下記の土曜日 13時30分－16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。
7月5日、8月16日、9月13日、10月18日、11月15日、12月6日、
2015年1月10日、2月7日、3月14日
・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分－16時50分

●黙想会
[1泊6,600/7,000円程度
[関東]
2014年
10月11日(土)10時－12日(日)14時(東村山)
11月22日(土)10時－23日(日)14時(東村山)、
2015年
02月28日(土)10時－3月1日(日)14時(上石神井)。
[関西]
10月4日(土)13時30分－5日(日)15時(宝塚)。

●坐禅会
・月曜日　17時20分－20時10分
・木曜日　17時30分－20時10分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。
但し祝日、4月17日、4月28日、5月1日、7月31日、8月全体、9月22日、12月29日は休み。
●坐禅接心
[秋川神冥窟] 1泊2400円(＋暖房費)程度。
08月08日(金)20時30分－15日(金)10時
09月19日(金)20時30分－23日(火)10時
10月31日(金)20時30分－11月3日(月)10時
[関西]
7月30日(水)17時45分－8月5日(火)15時、宝塚市。

●アガペ会
下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時－18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。
6月28日(土)、10月25日(土)、2015年1月25日(日)

・黙想会(アガペ会会員対象)6月7日(土)10時－8日(日)14時(東村山)、1泊6,600円程度。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座　2014年
日時　毎週金曜日
18時45分～20時30分

07/04　神の国― イエスの告げるメッセージ
07/11　イエスの生き方― 神に遣わされて人に仕える
07/18　イエスのたとえ話― 神の働きを語る
07/25　イエスの人間関係― 罪人と弟子と共に
07/26　◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
08/01,15 ○休み
08/08　イエスは誰か― イエスの自己理解
(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/22　最後の晩餐― 自分を与えるイエス (上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/23-31　●通う霊操(18時-20時45分)
(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/29　イエスの受難― その史実と意図
(上智大学内クルトゥルハイム2階)
09/05　イエスの死― その救済的意義
09/12　聖書のイエス像― ヨハネとパウロの見たイエス
09/19　イエスの復活― 今に生きるイエス
09/26　聖霊― 神の愛に導かれる
10/03　祈りの本質とさまざまな祈り方― 神と関わる
10/10 洗礼と堅信― イエスに結ばれて生きる
10/11-12　●黙想会(東村山)
10/17　教会の成立と意味― イエスを中心に集う
10/24　人間としてのイエス― 新しい人間像の基礎づけ
10/31　御子としてのイエス― イエスの神との関係
11/07　父と子と聖霊― 神の生命に与る
11/14　信仰の決断― 支えられて生きる
11/21　ミサ祭儀― 神への奉仕と生活の糧
11/22-23　●黙想会(東村山)

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座　2014年
日時　第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

［人間］
07/01　世界の根源 ―― 創造的自由・進化・摂理
07/15　人生のうちに働く超越 ―― 神経験の多様な形
07/26　◆感謝のミサ(14時、クルトゥルハイム2階、80人限定)
7/29「私は在る」―― 旧約における神の自己啓示と預言
08/05　○休み
08/19　神の語りかけ ――「契約」と「救い主」の待望(クルトゥルハイム2F)
08/23-31　●通う霊操 (18時－20時45分)
09/02　将来の約束 ―― 自立した世界の中の導き
［イエス］
09/16　史的イエス ―― 活動と生き方の特徴
09/30　神の国 ―― イエスの使信
10/07　根本たる愛 ―― 律法の完成と克服
10/11-12　●黙想会(東村山)
10/21　受難による救い ―― イエスの救済的役割
11/04　死からの命 ―― 復活の認識・経験・理解
11/18　キリストはだれか ―― キリスト理解の発展
11/22-23　●黙想会(東村山)

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール　TEL　03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父
〒102－8571　千代田区紀尾井町7－1
上智大学SJハウス

電話　03－3238－5124(直通)　－5111(伝言)
Fax　03－3238－5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

7月19日　マリアの祈り
8月は休み
9月13日　テレーズの祈り

講話　伊従 信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費　200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177－0044
練馬区上石神井4－32－35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail　notredamedevie.japan@gmail.com
ホームページ
http://www.ndv-jp.org/

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉献を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所 在 地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3－1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-ﾒｰﾙ： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交 通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日 程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17 時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

① 2014 年 4月29日（火）～ 5月 7日（水）
② 8月14日（木）～ 8月22日（金）
③ 10月25日（土）～ 11月 2日（日）
④ 12月27日（土）～ 2015 年1月 4日（日）

B. 祈りの体験：週末3日間 （金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

① 2014 年 2月 7日（金）～ 2月9日（日）
② 2月 28 日（金）～ 3月2日（日）
③ 3月 21 日（金）～ 3月 23 日（日）
④ 6月 20 日（金） ～ 6月 22 日（日）
⑤ 7月 18 日（金）～ 7月 20 日（日）
⑥ 9月 26 日（金）～ 9月 28 日（日）
⑦ 11 月 28 日（金）～11 月 30 日（日）

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2014 年 5月 26 日（月）～ 6月3日（火） 藤原 直達 師 （大阪教区）

◎ 対 象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、 ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10 日前までに申し込んでください。 先着順 11 名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やｸﾞﾙｰﾌﾟ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。 （但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・・開始日の８日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。　URL ： http://sadhana.jesuits.or.jp/

コース	日時＜指導者＞	指導者	開催場所	申込み
入門Ｃ	7/13(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室(市ケ谷)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5802-3844
サダナⅠ	7/18(金)17:30- 21(月)16:00	Fr ラフォント	女子御受難会修道院 (宝塚市)	大倉本子 Tel 078-811-2706
霊操とⅠ	8/17(金)17:30- 26(火)朝	Fr ラフォント	西日本霊性センター(長束黙想の家/広島市) 申込み:西日本霊性センター「こもれび」 Sr　田中　Tel 082-239-0034／Fax239-0036	
日帰り フォロー アップ	9/7(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室(市ケ谷)	若山美知子※
サダナⅠ	9/12(金)17:30- 15(月)16:00	Fr植栗	シャルトル聖パウロ会 盛岡修道院	伊藤律子 Tel 090-4478-0088
サダナⅡ	9/19(金)17:30- 9/23(火)16:00	Fr植栗	那須・聖ヨゼフの家	若山美知子※
入門Ａ	9/28(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
サダナⅡ	10/9(水)17:30- 13(月)16:00	Fr ラフォント	女子御受難会修道院 (宝塚市)	大倉本子

※不在の場合は、渡辺由子　　Tel&Fax ： 042-325-7554

◆サダナⅠ（入門A.B.C）体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナⅡ
Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室　１４：００～１６：００
　　１２月のみマリア聖堂（ミサ有り）

9月11日（木）『霊魂の城』第六の住居・第五章
11月13日（木）、12月11日（木）

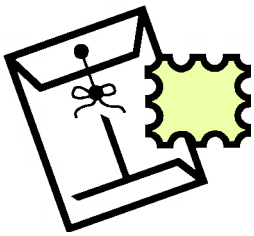
アビラの聖テレジアの「霊魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

霊性センターニュース
＊年間購読（郵送）のご案内＊



ご郵送は、基本的に申し込み翌月から 12 月までとなります。

例：6 月申込の場合は、7 月号～12 月号（但し 8 月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250 円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等をご記入の上、
郵送か下記の e-mail でお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院　「霊性センター事務局」

《e-mail でのお申込み》
tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

＊何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。
Tel: ０３－３７０４－２１７１
Fax: ０３－３７０４－１７８９

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００１１０－４－２９７２５０
加入者名：　カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

戦後、中国を追放されたイタリア人宣教師が数人来日、男子跣足カルメル修道会を創立した。創立時のカルメル会士たちはすでに帰天したが、この三か月、相次いで戦後のカルメル会を支えていた兄弟たちが、御父のもとへ旅立った。

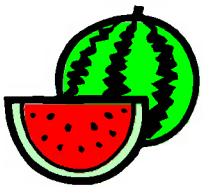
4 月 21 日　聖クリスティーナのペトロ・アロイジオ神父　99 歳
5 月 25 日　聖ヨゼフのレンデント・ザノン神父　90 歳（10 年前に帰国）
6 月 4 日　聖霊のマリア・アウグスティヌス奥村一郎神父　91 歳

多くの人々の物心両面の支えによって、カルメル会の種は、日本の地に植えつけられた。上記の三人の司祭を始め、すでにこの世を去った他の多くの会員たちの働きによって、芽を出し、成長してきた。今後はどうなるのか。聖霊の導きにゆだねるしかないが、修道会はどこもかしこも召命の危機。人々は、この世の幸せを求め、奔走している。神のため、教会と人々のために、すべてを捨ててキリストの後に従う若者は、この日本には、もういないのだろうか。

（P.九里）

＊＊＊＊＊＊　８月休刊のお知らせ　＊＊＊＊＊＊

「霊性センターニュース」は、８月（号）休刊（７月送付無し)となります。
９月号は、８月下旬発送予定です。ご了承下さい。



製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。
作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。
初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪
「９月号」製本日　　８月２６日(火)　上野毛教会信徒会館ホール１階
午後１時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL　03・3704・2171